

## 2 議題

### 資料 1

### (1) 【水道事業】

#### ①適正な水道料金のあり方について

- 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化
- 2 環境変化を踏まえた収支見通しについて
- 3 今後のスケジュール（案）について



# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化



## はじめに

- 現行経営戦略27頁で記載しているとおり、県水料金改定などの水道事業に影響する重要な決定が行われた場合には、随時、計画を見直すこととされている。

## 6. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

本計画策定後は、各種目標を着実に実行するため、目標に対する計画の進捗状況を管理するとともに、PDCA サイクルを回して継続的な改善を図ります。本計画については、「安城市水道事業及び下水道事業審議会」に諮り、定期的（5年程度ごと）に計画の見直しを行うとともに、広域化等の抜本的な改革や県水料金改定などの水道事業経営に影響する重要な決定が行われた場合には、随時、本計画を見直し、安定した経営維持に努めます。

出典：「安城市水道事業経営戦略（令和5年度～令和14年度版）」27頁



## 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

- 県営水道料金の値上げ
- 昨今の電気代高騰、物価上昇
- 人口減少による有収水量の減少等

環境の変化及びそれが本市水道事業にもたらす影響について説明します。



# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

## • 県営水道料金の値上げ

- 県営水道料金について、2024年度と2026年度の2段階で料金改定が予定されている。

区分			単位	現行料金	改定料金	
					2024年 10月1日～	2026年 4月1日～
料金単価	基本料金	基礎水量	円/m <sup>3</sup> /年	10,800	同左	同左
		その他水量	円/m <sup>3</sup> /年	15,360	同左	同左
	使用料金		円/m <sup>3</sup>	26	28	32
料金収入	平均改定率 (4年間の料金収入の伸び率)		%	—	5.6	

### 改定の考え方

- 料金算定期間における総括原価を料金で回収することを基本とする。
- 料金算定期間は、(公社)日本水道協会の水道料金算定要領に基づき、4年間(2024年度から2027年度)として検討する。
- 県民生活及び受水団体の経営への急激な影響の緩和や料金改定の周知期間を確保する。



未処分利益剰余金の1/2を活用して、料金改定時期の延伸や料金改定幅を圧縮するとともに、2024・2025年度と2026・2027年度の2段階で改定する。

出典：「愛知県営水道事業の経営に関する説明会資料」(令和5年10月)  
愛知県企業庁水道部

# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

- 県営水道料金の値上げによる影響

➤ 県営水道料金の値上げにより、本市水道事業の収益性に影響が見込まれる。

	～2024.9.30 (現行)	2024.10.1～ 2026.3.31	2026.4.1～
R6見込水量(受水量) ①	1,488万m <sup>3</sup>		
使用料金単価 ②	26円	28円	32円
使用料金(税込み) ①×②×1.1	4億2,600万円	4億5,800万円	5億2,400万円
現行からの増加額 (年額)	-	3,200万円	9,800万円

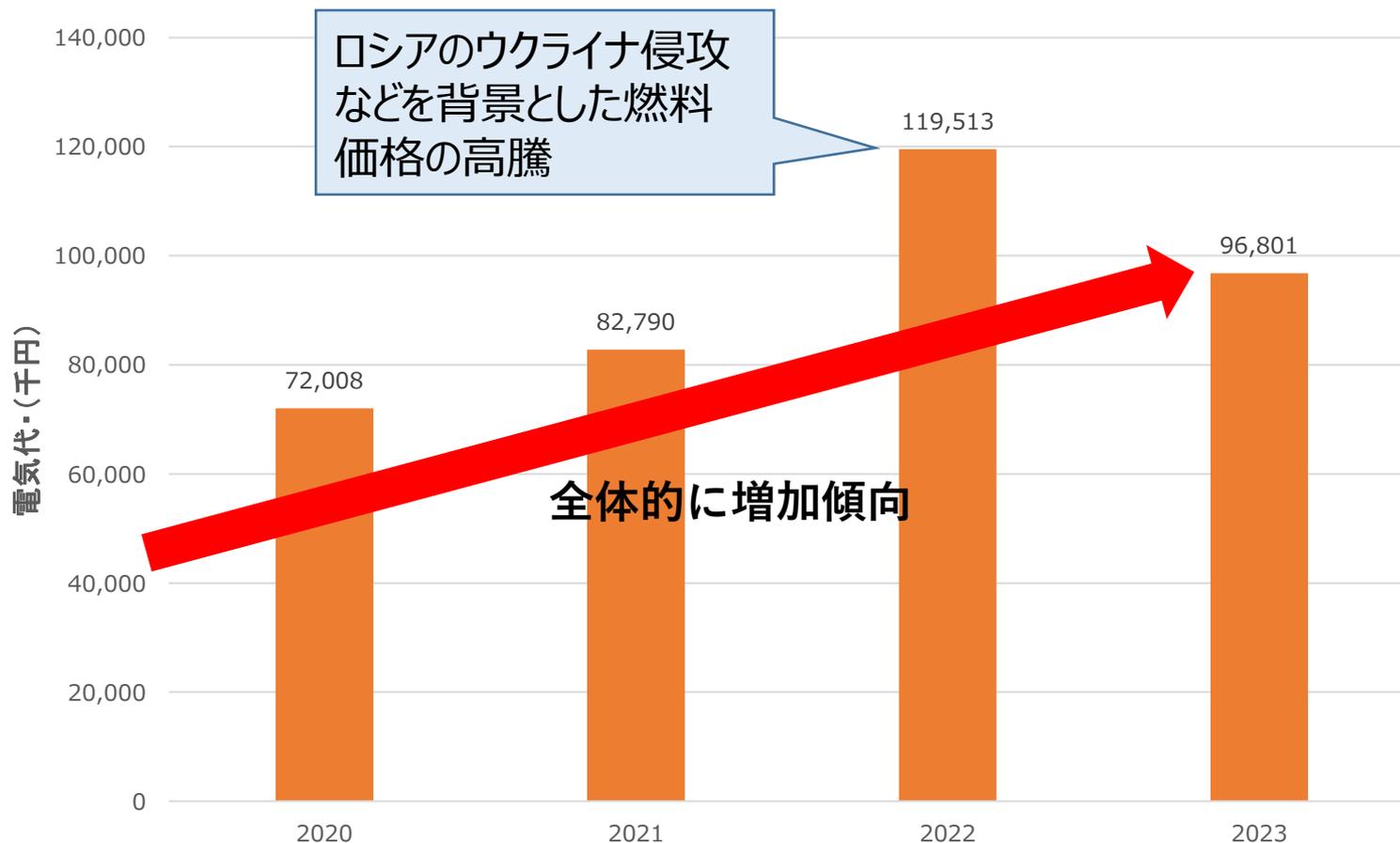
(令和5年度第4回安城市水道事業及び下水道事業審議会 資料1より再掲)



# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

- 電気代の高騰（動力費の推移）

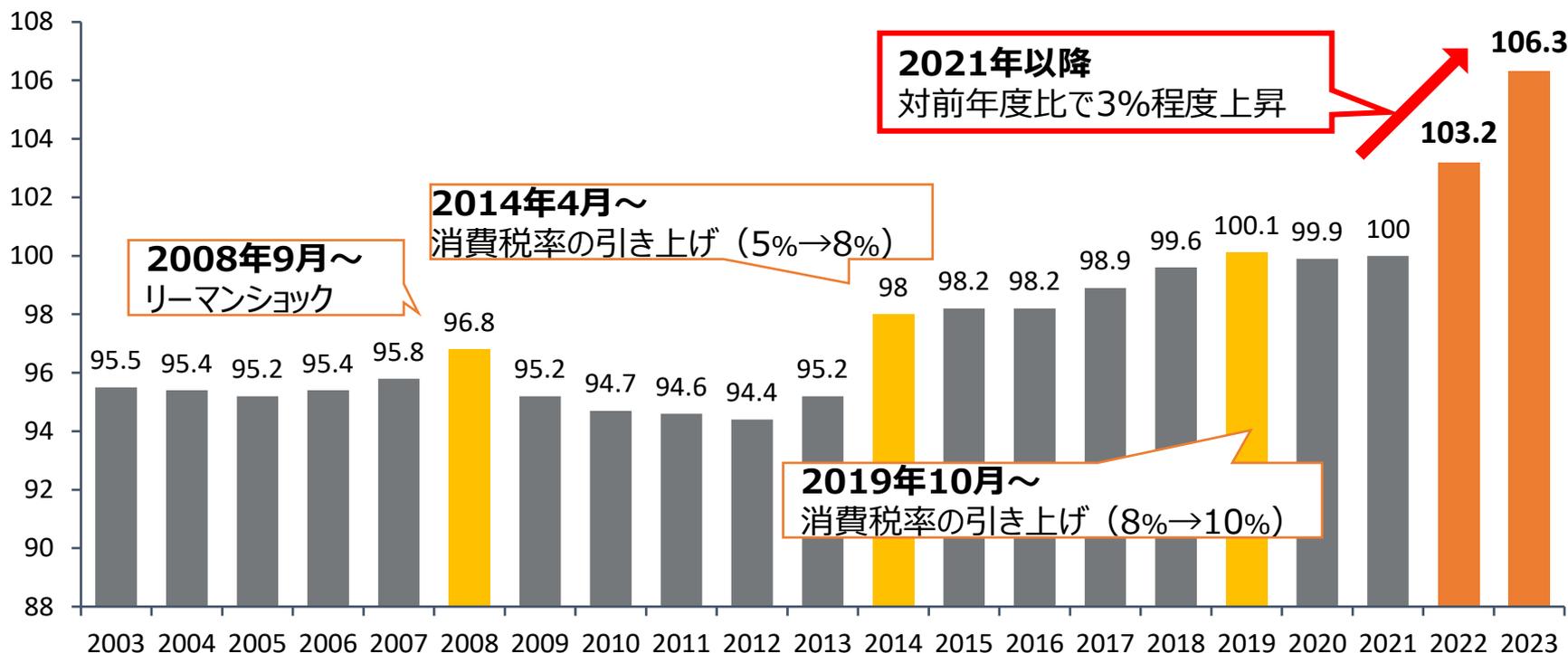
➤ 電気代は、2020年度から2023年度で増加傾向にある。



# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

## • 物価上昇

➤ 消費者物価指数は令和4年（2021年）以降、対前年度比で3%上昇している。



参考：消費者物価指数の対前年度比較の増加率

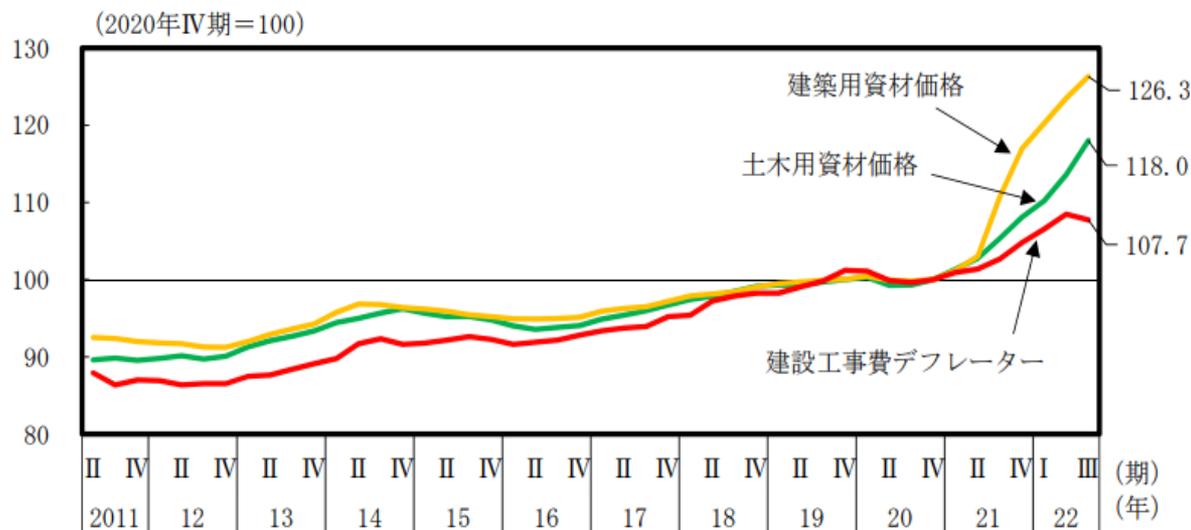
Year	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
Rate	0.8%	2.9%	0.2%	0.0%	0.7%	0.7%	0.5%	-0.2%	0.1%	3.2%	3.0%

出典：総務省「2023年（令和5年）平均消費者物価指数の動向」より作成

# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

## • 建設資材価格の上昇

- 原材料費及びエネルギーコストの世界的な上昇、さらには円安の影響等により、建設資材価格が高騰している。



• 昨今の資材価格高騰  
• 実際の見積単価の上昇率  
等を踏まえ、各年度の計画値から  
**20%** 程度の上昇を見込む

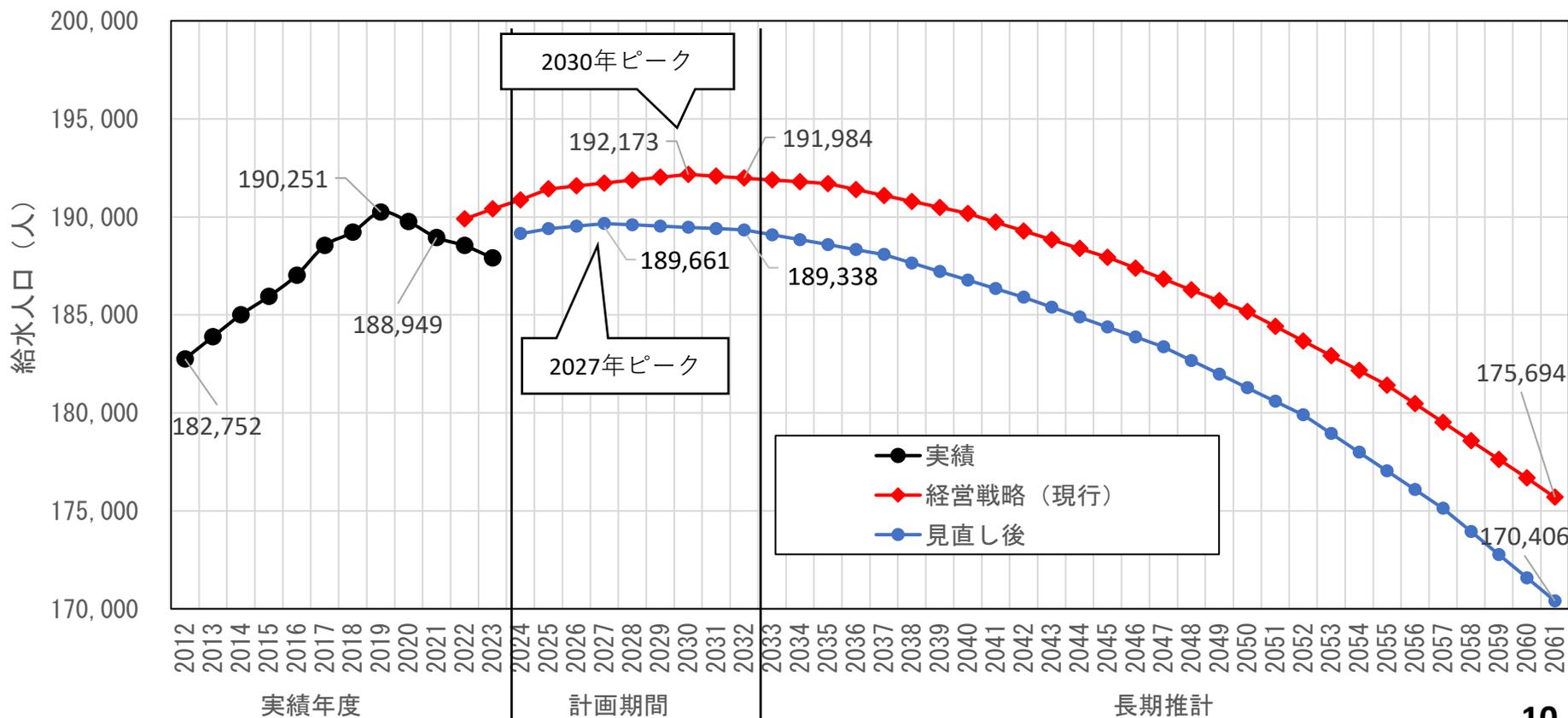
出典：内閣府「建設資材価格の高騰と公共投資への影響について」  
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/shihyo/2022/1212/1293.pdf>



# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

## • 人口減少（第9次総計に基づく給水人口の推移）

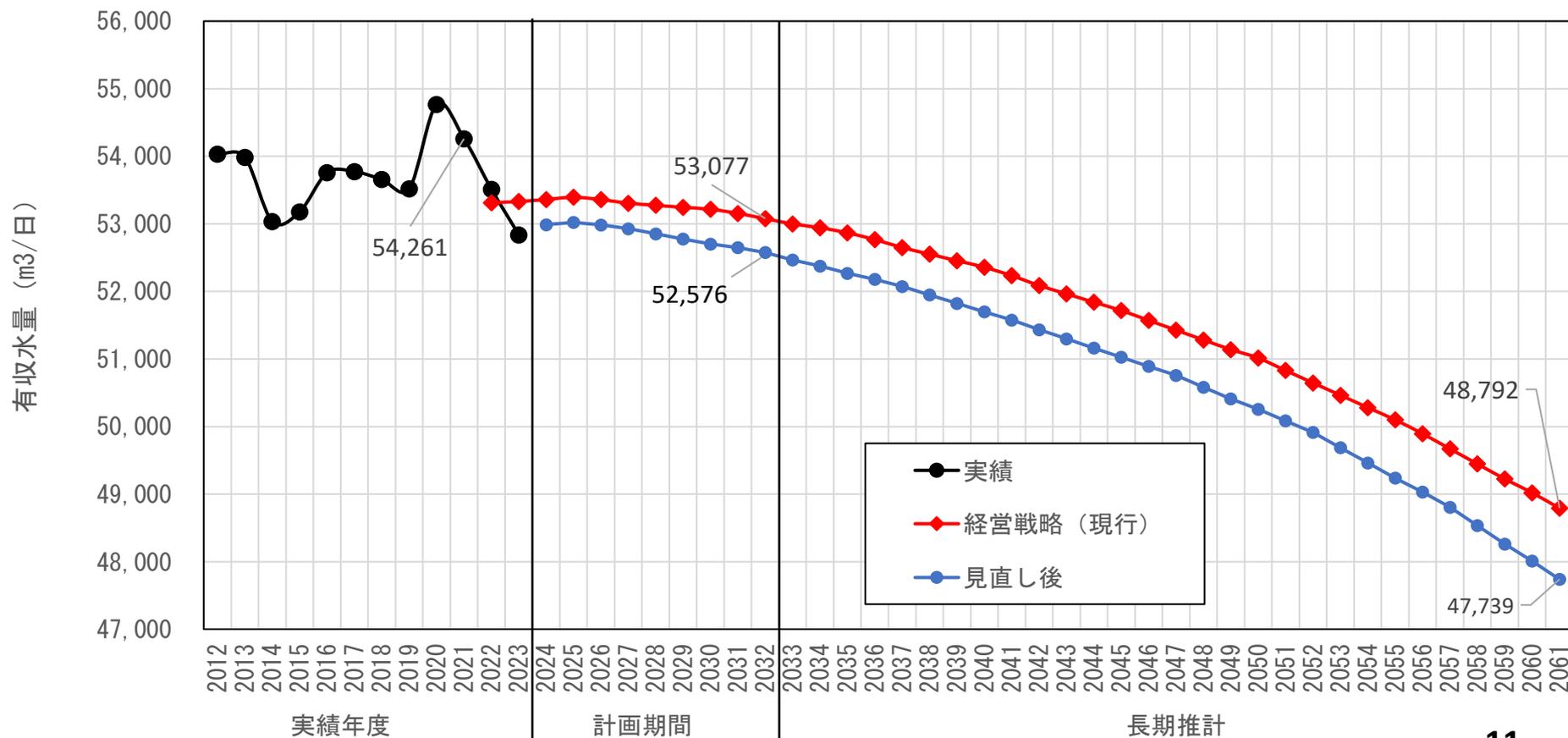
- 現行の経営戦略は第8次安城市総合計画（後期計画）の推計値に基づき推計しているが、第9次安城市総合計画の推計値を反映すると、給水人口の減少幅は大きくなることが予想される。



# 1 水道事業の経営を取り巻く環境の変化

## • 有収水量の減少

➤ 人口減少による給水人口の減少を踏まえ見直しを行った結果、現行の経営戦略と比較して有収水量は減少する見込みとなっている。



## 2 環境変化を踏まえた収支見通しについて

2.1 収支の見通しについて

2.2 経営戦略での目標値の達成見込みについて

2.3 本市の水道料金の現状について





## 1 現行経営戦略での中長期見通し

- 人口減少（8次総計）及び過去の有収水量の推移を踏まえた水需要予測
  - 将来的な設備投資の計画等を踏まえた収支見通し
  - 資金残高目標値を25億円以上に設定
- 計画期間（令和5（2023）年度から令和14（2032）年度）までの間は、**現行の料金水準で利益を確保できる見通し**
- 資金残高も、計画期間内において**25億円以上確保できる見込み**

## 現行経営戦略策定後の環境の変化



## 2 環境の変化を踏まえた収支見通しの見直し

- 県営水道料金の値上げを反映
  - 人口減少（9次総計）を反映
  - 動力費の推移を踏まえた推計値の見直し
  - 直近の実績値（R4）決算見込み（R5）及び昨今の物価上昇等を反映
  - 資金残高目標値は現行経営戦略を踏襲
- 受水費増等により、**計画期間内において赤字となる見込み**
- 資金残高も、計画期間内において**25億円を割り込む見込み**

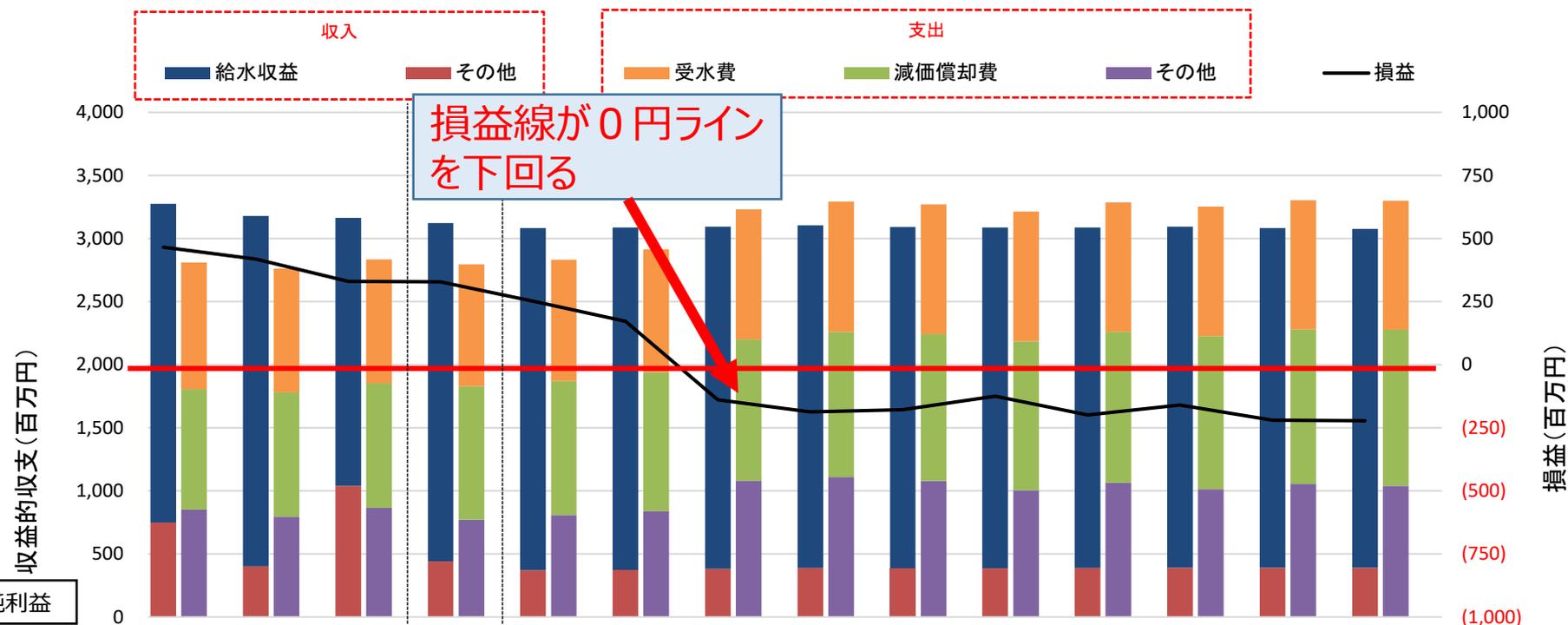


# 2.1 収支の見通しについて

## 環境の変化を踏まえた収益的収支の推移

→2026年度以降、赤字となる見込み

(令和5年度末時点)



年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
現行経営戦略	466	418	182	285	239	-6	140	97	129	149	129	61	95	75
見直し後	466	418	330	328	251	172	-139	-188	-179	-125	-200	-160	-220	-223

安城市水道事業経営戦略（令和5年8月）では以下の目標値を定めている。

### 経営戦略での目標値



#### 投資計画

- ✓ 管路の耐震管率※を令和14（2032）年度までに**48.6%**を目指します。

※管路の耐震管率：管路の総延長に対する耐震管の割合を表す指標。



#### 財政計画

- ✓ 資金残高について、非常時に継続可能な事業運営のため、**25億円以上**を確保します。
- ✓ 企業債残高対給水収益比率について**300%以内**で発行します。
- ✓ 料金回収率は**100%以上**とします。

### 目標値の達成見込み



#### 投資計画

- ✓ 管路の耐震管率※は令和5（2023）年度において、**38.5%**まで進捗していますが、令和14年度(2032)年度は**47.3%**程度の達成見通しとなります。



#### 財政計画

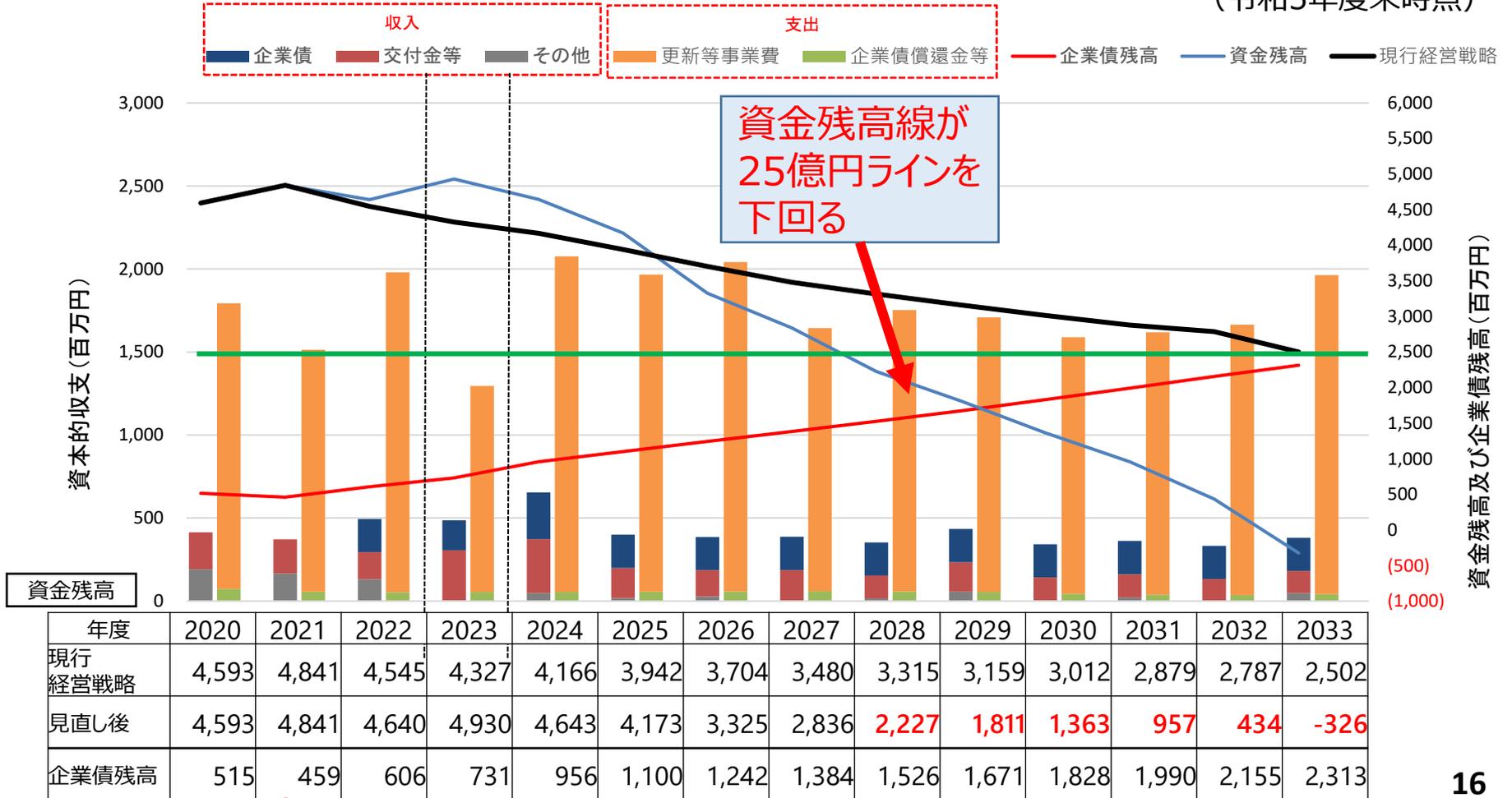
- ✓ 現在の料金水準では2028年度以降、資金残高目標値の**25億円以上維持できなくなる見込み**です。
- ✓ 企業債残高対給水収益比率は**300%以内**で発行します。
- ✓ 現在の料金水準では、料金回収率は**100%を下回る**ことが見込まれます。

# 2.2 経営戦略での目標値の達成見込みについて

## 収支見通しの見直しを踏まえた資本的収支の推移

→2028年度から資金残高目標値を下回る見込み

(令和5年度末時点)

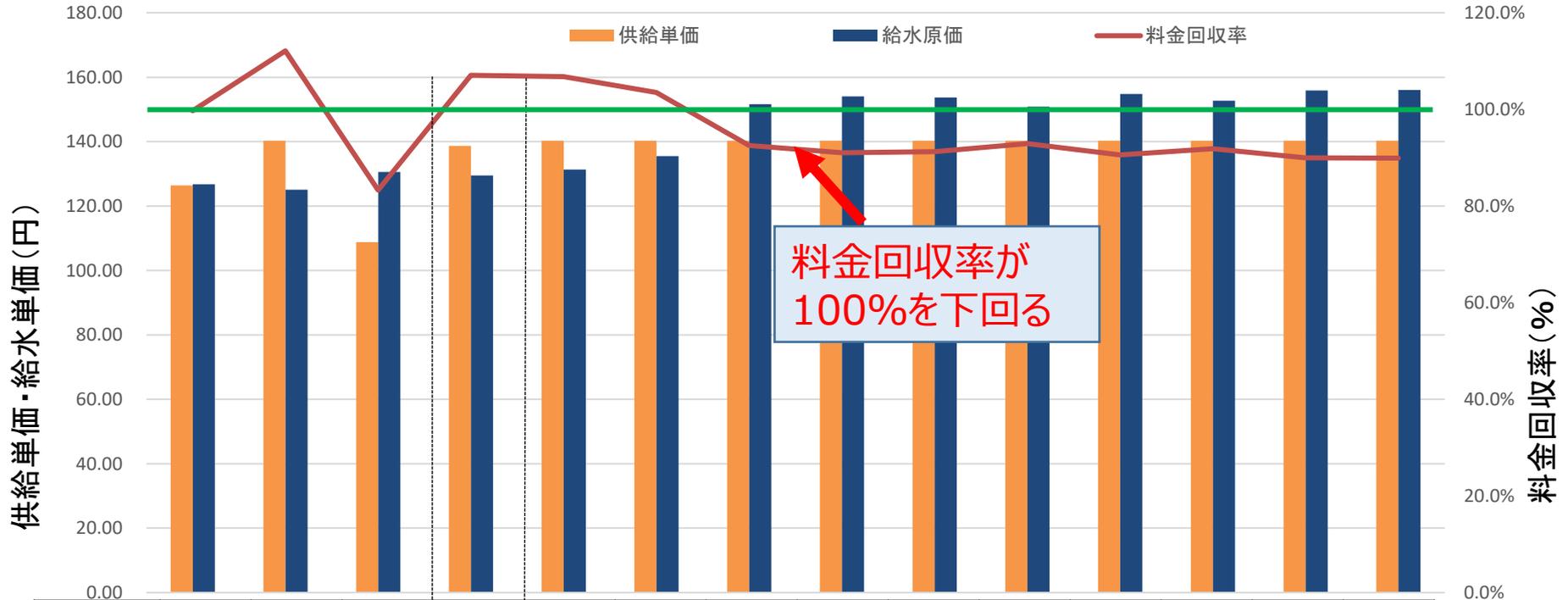


# 2.2 経営戦略での目標値の達成見込みについて

## 料金回収率

→目標値である100%以上を維持できない見込み

(令和5年度末時点)



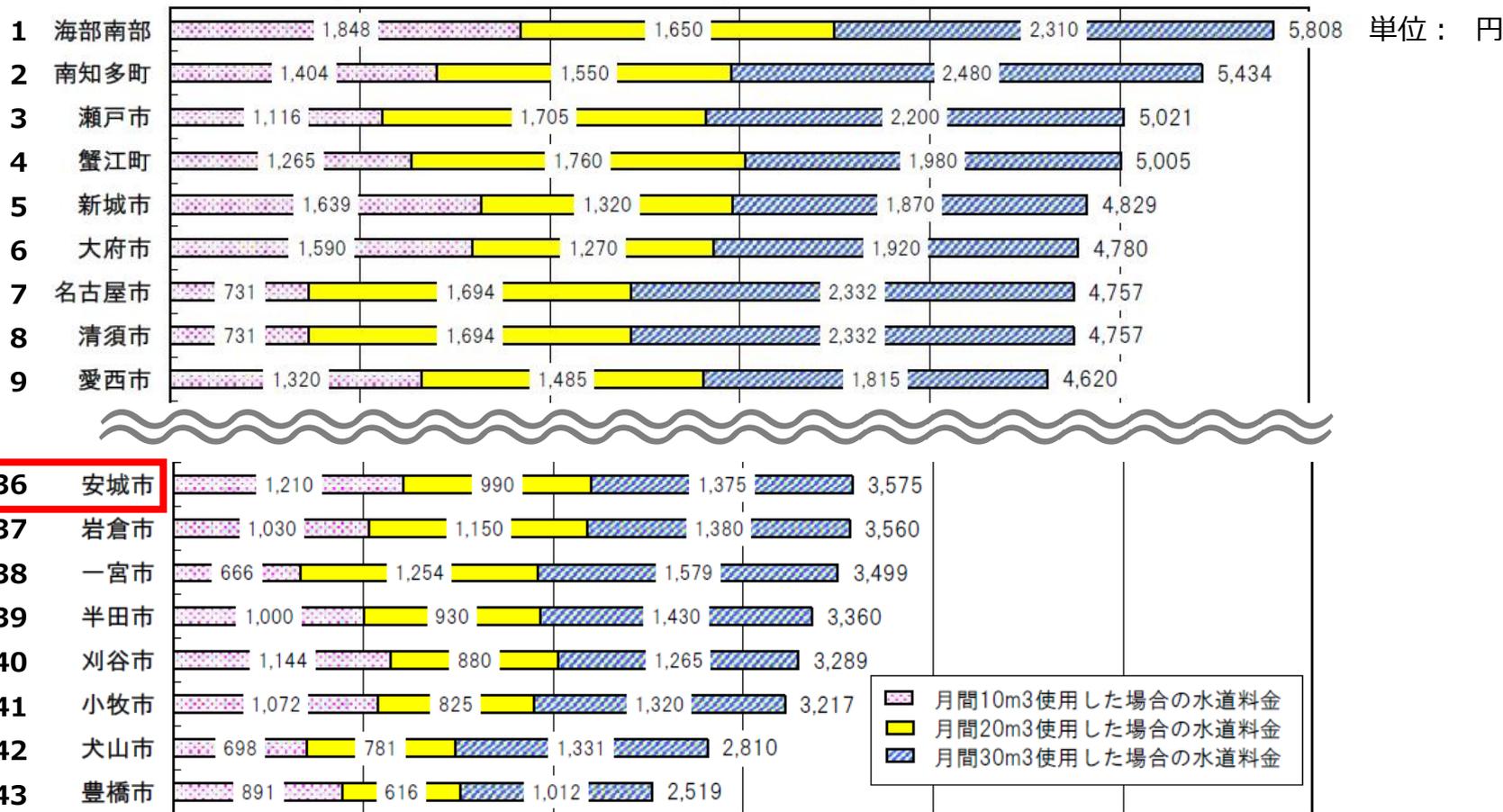
年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
供給単価	126.37	140.23	108.74	138.67	140.23	140.23	140.23	140.23	140.23	140.23	140.23	140.23	140.23	140.23
給水原価	126.71	125.08	130.59	129.51	131.35	135.50	151.59	154.07	153.67	150.88	154.77	152.68	155.86	156.00
料金回収率	99.7%	112.1%	83.3%	107.1%	106.8%	103.5%	92.5%	91.0%	91.3%	92.9%	90.6%	91.8%	90.0%	89.9%

※ 2020年度および2022年度は、水道料金基本料金の減免により料金回収率が100%以下となっている。



## 2.3 本市の水道料金の現状について

本市の水道料金は愛知県内でも低い水準にある。



出典：愛知県「令和4年度 愛知県の水道〈水道年報〉」

一般家庭用水道料金比較(φ13mm) 令和5年3月31日 現在より抜粋

ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

## 2.3 本市の水道料金の現状について

生活基盤施設耐震化等交付金について、本市料金（1か月に10m<sup>3</sup>使用した場合の家庭用の水道料金）が交付基準に定める基準より低いため、R5年度より交付対象外となっている。

### 生活基盤施設耐震化等交付金に係る交付基準について

緊急時給水拠点確保等事業（重要給水施設配水管）

水道管路耐震化等推進事業（老朽管更新事業）

- ・給水人口5万人以上の水道事業者における平均料金は、1,219円とする。

出典：国土交通省通知「生活基盤施設耐震化等交付金に係る交付基準について」令和6年4月12日

#### 安城市水道料金と全国平均の推移

	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
安城市	1,210円	1,210円	1,210円	1,210円	1,210円	1,210円
全国平均※1	1,173円	1,178円	1,184円	1,207円	1,215円	1,219円
差	+37円	+32円	+26円	+3円	-5円	-9円

※1 給水人口5万人以上の水道事業者の全国平均

➡ 令和5年度より、全国平均を下回っている。



令和5年7月6日付 厚生労働省医薬・生活衛生局水道課長通知にて、下記のことについて通知があった。

- 水道法施行規則第12条には、水道料金の設定の基礎には、資産維持費を含める必要があると規定されている。
- 水道法第39条第1項の規定に基づく国の立入検査において、水道料金等に関する法令等の遵守状況についての確認を強化する。



本市の水道料金は、資産維持費が考慮されていない。



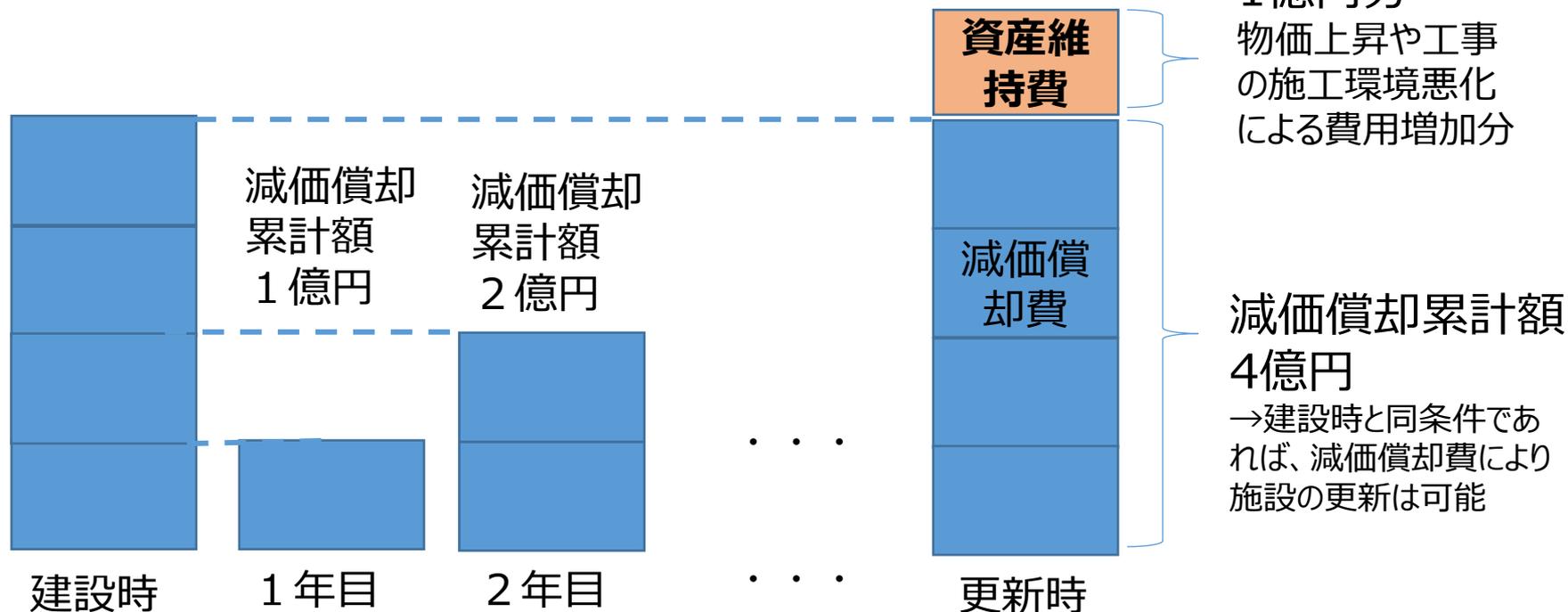
## 2.3 本市の水道料金の現状について

### 資産維持費について

#### (具体例)

工事費用 4億円

更新費用 5億円



資産維持費とは、水道施設の計画的な更新等の原資として内部留保すべき額。

物価上昇や工事の施工環境の悪化による費用の増加等に対応するもの。

## 2.3 本市の水道料金の現状について

- 現行経営戦略25頁で記載しているとおり、将来の設備更新に必要な財源を考慮した水道料金のあり方を検討する必要がある。

料金	<p>【現状・課題】</p> <p>水道料金は平成14年度の改定以来、消費税率の改定を除いて、据え置かれています。今後の水需要の減少を踏まえて、物価高騰に加え耐震化や老朽施設の更新にかかる費用を確保する必要があります。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>給水収益は減少見込みですが、多額の設備投資等が必要となります。そこで、一般会計からの繰出金の動向を踏まえながら、事業運営に必要な収益と資金残高の確保を念頭に置き、人口減少時代に向けて水需要の変化に対応した料金体系や<b>将来の設備更新に必要な財源を考慮した水道料金のあり方を検討</b>します。</p>
----	--

出典：「安城市水道事業経営戦略（令和5年度～令和14年度版）」25頁



### 水道料金改定の必要性について

本市水道事業について、県営水道料金値上げや物価上昇等の環境の変化を踏まえると、

- 中長期見通しによる損益赤字
  - 資金残高目標値の未達成
  - 料金回収率100%以上の未達成
- が見込まれます。

今後も水道事業の安定的な経営を図るため、  
水道料金改定の検討を行う必要があると考えます。



# 3 今後のスケジュール（案）について



### 3 今後のスケジュール（案）について

➤ 水道料金改定の検討に際しては、必要な検討事項を整理したうえで、本審議会において十分にご審議いただいたうえで検討を進める。

開催日 回	6月25日 第1回	7月22日 第2回	10月7日 第3回
目的	・水道料金改定の必要性の検討	・水道料金改定率の検討	・水道料金改定の時期・回数の検討
内容	①水道事業の経営を取り巻く環境の変化 ②環境変化を踏まえた収支見通しについて ③今後のスケジュール（案）について	①水道料金改定の概要（水道料金算定要領） ②水道料金算定期間における推計 ③水道料金改定案の考え方 ④他自治体の状況	①水道料金改定の時期・回数について

開催日 回	11月18日 第4回	1月22日 第5回	3月26日 第6回
目的	・水道料金体系の検討	・水道料金体系の決定 ・答申案の確認	・答申
内容	①現行水道料金体系の分析について ②水道料金体系案の考え方	①料金体系について ②答申案の共有 ③水道料金改定を踏まえた経営戦略案の提示	①答申 ②経営戦略の確定

